

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名： 前橋市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社赤城タクシー	【デマンド交通「城南あおぞら号」】 運行区域:城南地区 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時30分～16時30分 運行車両:ハイエース 運賃:大人300円、子ども150円	今後の改善点として助言を受け、周知では地区別マップの作成や未利用者向けへの乗り方教室を実施し、利用者は増加傾向にある。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ①路線年間延べ利用者数 【目標値】1,900人 【実績値】2,645人(達成) ②1日平均利用者数 【目標値】6.1人 【実績値】8.5人(達成) ③乗換えポイントの利用促進 【目標値】利用率40.0% 【実績値】利用率41.4%(達成) ~~~~~ 【分 析】 ①利用者数 バスマップをR7.4.1時点で更新・全戸配布し当該路線を周知した。また、バス停見直しを自治会の協力を得て住民の声を拾う形で実施したことにより、利用者数が増加している。この他、乗換えポイントである城南支所にサイクル&バスライド駐輪場を設置したことで乗換えポイント利用率に寄与している。	利用者は増加傾向にあるが、まだまだ少ない状況であり、市内他路線と比べても収支率が低い状況である。についてはモビリティマネジメント等の取り組み(生活交通改善の継続的な取り組み)や利用促進を強化する。 * 市民属性割引 * バス停の見直し * バス待ち環境の改善 * バス自体のPR強化 * 運行時間等の検討 * 乗り方教室の実施等
日本中央バス株式会社	広瀬線 系統:前橋公園～JR前橋駅～ガーデン前橋(往10.5km、復10.5km) 運行回数:4回/日(平日のみ) 運賃:470円 系統:JR前橋駅～協立病院～ガーデン前橋(往8.0km、復8.0km) 運行回数:6回/日 運賃:470円	今後利用者となりうる住民等に対しての新たな取組みとして、高校生世代に対してバス通学定期半額支援を実施。また、2025年4月にバスロケーションシステムを導入し、利便性向上により利用促進を図る。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C ①路線年間延べ利用者数 【目標値】24,800人 【実績値】21,666人(未達成) ②1日平均利用者数 【目標値】約67.9人 【実績値】約59.4人(未達成) ③1便平均利用者数 【目標値】約6.8人 【実績値】約5.9人(未達成) ~~~~~ 【分 析】 バスロケーションシステム、高校生世代に対するバス通学定期の補助などの需要喚起策を行ったものの、未達となった。	市内他路線と比べてもまだまだ利用者が少ない状況である。についてはモビリティマネジメント等の取り組み(生活交通改善の継続的な取り組み)や利用促進を強化する。 * 市民属性割引 * バス待ち環境の改善 * バス自体のPR強化 * 高校生通学定期半額支援

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

乗り方教室のモビリティ・マネジメントや高校生への定期券半額支援の利用促進の取り組みを行い、城南あおぞら号の目標値を全て達成されたことを評価する。城南あおぞら号や広瀬線の利用者数を増加させることを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。また、引き続き将来にわたって公共交通の利用者となり得る高校生の公共交通利用を促進し、公共交通を利用する習慣の形成につなげることを期待したい。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名: 桐生市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
株式会社沼田屋タクシー	黒保根町デマンドタクシー (運行区域:黒保根地区)	<p>・運転免許証を自主返納した市民に対し、デマンドタクシーの回数券の無償交付を継続して行っている。また、わたらせ渓谷鐵道においても、運転経歴証明書を提示した方に対し、普通運賃を50%割引する措置を行っており、鉄道事業者と連携して利用促進の施策を行っている。</p> <p>・デマンドタクシー利用案内のチラシについて、地域おこし協力隊が刷新した案内チラシを黒保根町内に毎戸配布したほか、黒保根町内の観光施設に利用者への配布を依頼し、利用促進を図った。</p> <p>・令和6年6月に策定・公表した「地域公共交通計画」の基本方針の一つに「市民総ぐるみによる交通変容への挑戦」を位置付け、市民の交通に対する意識・行動変容の周知に取り組んでいる。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。</p> <p>目標:1日あたり利用者数10.1人 実績:1日あたり利用者数5.2人</p> <p>分析:地区人口の減少(令和6年3月末1,477人→令和7年3月末1,436人)に伴い、利用者の減少が考えられる。</p> <p>C なお、黒保根地区は、水沼駅周辺のリトリート環境整備事業を進めており、令和5年9月にサウナと飲食を楽しむ施設「サウナの森 水沼ヴィレッジ」、令和7年4月に水沼駅に併設した温泉施設「駅の天然温泉 水沼の湯」がオープンしたほか、周辺の森林公園整備にも取り組んでいるため、黒保根町デマンドタクシーについては、今後、こうした施設利用などにより、利用者の増加が期待できる。</p>	<p>・運転免許証自主返納者に対してデマンドタクシーの回数券交付支援について継続して実施する。</p> <p>・民間企業による水沼駅周辺の再開発などをきっかけに、黒保根区域内の移動にデマンドタクシーを利用してもらえるよう、継続してアピールを行っていく。</p> <p>・毎月、毎戸配布している市の広報紙にデマンドタクシーの利用方法等を掲載し、利用促進を図る。</p>
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	免許返納者への割引措置や利用促進活動を通じて市民の意識改革に取り組まれていることを評価する。 黒保根町デマンドタクシーの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。また、生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月26日

協議会名:	沼田市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関越交通株式会社	(R6.10.1～R7.9.30) デマンドバスAエリア 営業区域:旧沼田市内 運行時間帯 8時35分～17時30分 運賃:400円	より効率的な運行を目指し、定量的な目標を達成できるよう関係者と情報を共有しながら、事業を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○目標 年間合計利用者数:35,000人 収支率:9.2%以上 市負担額:72,838千円以下 ○実績 年間合計利用者数:35,827人 収支率:12.3% (デマンドバスAエリアの収支率は12.2%) 市負担額:74,709千円	人件費、燃料費の高騰により、経常費用が増加したため、市負担額については目標達成とならなかった。 デマンドバスAエリアについては、利用者及び収支率は増加傾向にあり、目標を達成しているため、引き続き利用促進に努めたい。
関越交通株式会社	(R6.10.1～R7.9.30) デマンドバスBエリア 営業区域:白沢町及び利根町南部 運行時間帯 8時35分～17時30分 運賃:400円	より効率的な運行を目指し、定量的な目標を達成できるよう関係者と情報を共有しながら、事業を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○目標 年間合計利用者数:35,000人 収支率:9.2%以上 市負担額:72,838千円以下 ○実績 年間合計利用者数:35,827人 収支率:12.3% (デマンドバスBエリアの収支率は8.8%) 市負担額:74,709千円	人件費、燃料費の高騰により、経常費用が増加したため、市負担額については目標達成とならなかった。 また、デマンドバスBエリアについて、利用者が昨年度と比較すると減少しており、収支率も8.8%となっている。利用促進に向け、Aエリアへのアクセス性向上や路線バスとの接続強化を図るとともに、結節点機能の周知により利便性を高め、利用者数の増加につなげる。
株式会社老神観光バス	(R6.10.1～R7.9.30) デマンドバスCエリア 営業区域:利根町北部 運行時間帯:9時～17時 運賃:400円	より効率的な運行を目指し、定量的な目標を達成できるよう関係者と情報を共有しながら、事業を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 ○目標 年間合計利用者数:35,000人 収支率:9.2%以上 市負担額:72,838千円以下 ○実績 年間合計利用者数:35,827人 収支率:12.3% (デマンドバスCエリアの収支率は1.1%) 市負担額:74,709千円	人件費、燃料費の高騰により、経常費用が増加したため、市負担額については目標達成とならなかった。 デマンドバスCエリアについて、収支率は1.1%と低いが、前年度と比較して、利用者は着実に増加しているため、路線バスとの接続強化を図るとともに、結節点機能の周知により利便性を高め、更なる利用者数の増加につなげる。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	関係者と情報共有を行いながら効率的な運行を目指すことに取り組まれ、年間利用者数の目標値を達成されたことを評価する。 デマンドバスの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。また、収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。
---------------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月20日

協議会名: 渋川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関越交通(株)	渋川駅～渋川医療センター線 系統: 渋川駅～東町～渋川医 療センター(往3.3km/復3.2km) 運行回数: 平日12回/日 土日祝6回/日 運賃: 180円	利用促進のための周知活動が 評価されたことから、これを継 続している。 また、生活様式に合わせた利 用解説等、住民にとって分かり やすい周知を推奨されたことを 受け、このことについて研究を 進めている。 なお、これまで、渋川医療セン ターを含む主要な医療機関へ の乗り継ぎ情報を記載した予 約型バスの乗り方ガイドを配布 してきたことから、これも継続す る。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【年間利用者数】 目標: 17,200人 実績: 18,245人 【1便あたりの利用者数】 目標: 4.7人 実績: 5.0人 【分析】 目標値を上回る結果となっ た。小野上・子持地区予約 型バスとの乗り継ぎも併せ た利用促進策が効果を生 んだものと考えられる。	渋川医療センターに通う実習 生が利用する朝一番の便にお いて、需要過多となる状況が発 生していることから、増便等を 含む改善策を検討する必要が ある。
関越交通(株)	小野上・子持地区予約型バス 営業区域: 小野上地区及び子 持地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 10時～16時 運賃: 300円	利用促進のための周知活動及 び乗降場所の増設が評価され たことから、これを継続してい る。 また、生活様式に合わせた利 用解説等、住民にとって分かり やすい周知を推奨されたことを 受け、このことについて研究を 進めている。 なお、これまで、渋川医療セン ターを含む主要な医療機関へ の乗り継ぎ情報を記載した予 約型バスの乗り方ガイドを配布 してきたことから、これも継続す る。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【年間利用者数】 目標: 1,640人 実績: 2,207人 【1便あたりの利用者数】 目標: 1.4人 実績: 1.9人 【分析】 目標値を上回る結果となっ た。渋川駅～渋川医療セン ター線も併せた利用促進策 が効果を生んだものと考え られる。	利用者が順調に増加している 一方で、スマートフォンではなく 電話による予約が大部分を占 めていることから、スマートフォ ンによる予約の促進を図りたい。 また、相乗り促進のため、シス テム面での改善について研究 を進めたい。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)昨年度の二次評価結果を踏まえながら新たな研究を行いつつ利用促進に関する取組を継続的に実施していることを評価する。
利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月27日

協議会名: 甘楽町地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社 昭和タクシー	デマンド型タクシー「愛のりくん」 運行範囲: 町内全域及び町外 病院2箇所 運行回数: 10便/日(年中無 休) ただし、8月・9月は11便/日 運賃: 300円 ※未就学児は無料、小中学 生、障害者は100円、付添人 は200円	地方運輸局等による前回の二 次評価を踏まえ、より詳細な利 用実態を把握するよう利用が 多い年代・地域等について研 究している。また、利用者の大 多数が高齢者ということから、 敬老会での周知や、広報にて 案内チラシの全戸配布などを 行った。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。	B 事業が計画に位置付けら れた目標④のみ達成した。 ①収支率 目標: 11.5% 実績: 9.7% ②利用者1人当たりの町財 政負担額 目標: 1,600円 実績: 1,670円 ③年間利用者数 目標: 6,500人 実績: 6,130人 ④交通結節点での乗降数 目標: 210回 実績: 222回 分析: 交通結節点での乗降 数が増えていることから、観 光客の利用は増加している ことが読み取れる。 また、18時便の追加運行や 近年の物価高騰による経 費の増加が影響し、収支率 が目標を下回ったと考えら れる。	利用者の減少と収支率の低下 が顕著になってしまった。利用 者の増加のため利便性促進に 向けて予約システムの導入 や、経費削減のため運行ダイ ヤの見直しについて研究・検討 していきたい。 また、町内住民の利用を促す ため、出張説明会など、継続的 に広報活動を行っていく。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用促進への取組を継続的に実施していることや前回の二次評価を踏まえた取り組みを行っていることを評価する。 愛のりくんの利用者数を増加させることのみを目的とするのではなく、地域全体として移動の足が確保されていることが重要であることに留意いただきたい。 また、収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対し て妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい。
---------------------------------	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月28日

協議会名: 館林市外四町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)矢島タクシー	邑楽町内循環線 系統: 邑楽ー1(15.2km) 邑楽ー2(8.9km) 邑楽ー3(15.2km) 邑楽ー4(6.3km) 邑楽ー5(15.2km) 運行回数: 計25回/日 運賃: 200円(一般) 100円(学生・高齢者等)	引き続きバスの乗り方教室を行い、新たな利用促進の取組としては町公式LINEのメニューに「町内循環バス」のアイコン表示を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 利用者数18,000人以上 収入100万円以上 支出(国)700万円以内 支出(町)1,200万円以内 収支率20%以上 実績: 利用者数3,567人 収入62万円 支出(国)0万円 支出(町)1,583万円 収支率3.77% 分析: 利用者数についてはR4.10に運行を開始して以降、増加傾向にあったが、現在は一定の収束が見られる。今後も利用動向を継続的に注視していく必要があると思われる。	収入に関しては、現在車体ラッピング広告による営業外収入が1台算入されているが、今後はもう1台にもラッピング広告を行うこと、また、利用者数を増加させ、更なる収入につなげることで、収支率を向上させる必要がある。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用促進の取組を継続的に実施していることは評価できる。 収支率について、その数値目標を達成することのみを意識するのではなく、地域にとって必要なサービス水準を設定したうえで、必要なサービス水準に対して妥当なコストであるか、提供しているサービスの利用状況に対して需要に合ったものとなっているかを確認した上で分析することが望ましい
---------------------------------	---